

## 三菱ゆかりの地を訪ねて

# 静嘉堂 せいかどう

東京都世田谷区の閑静な住宅街の丘の上に立つ静嘉堂文庫と静嘉堂文庫美術館。

三菱第二代社長の岩崎彌之助と第四代社長の岩崎小彌太の父子二代によって収集された、

国宝7点、重要文化財84点を含む約20万冊の古典籍と6,500点の東洋古美術品が収蔵されています。



## 東洋の美と知の集積



必見!  
静嘉堂の  
至宝たち



【国宝】

俵屋宗達「源氏物語関屋・澪標図屏風」

江戸時代17世紀

琳派の祖として知られる俵屋宗達の作品。大胆な画面構成、巧みな色使いなど宗達画の魅力伝える傑作。3年かけて修理を行いリニューアルオープン展にて10年ぶりに披露された。



【国宝】

曜変天目(「稲葉天目」)

南宋時代12～13世紀

鮮やかな光彩で見る人を魅了する中国・南宋時代の茶碗。現存するのは世界に3碗のみで、静嘉堂の所蔵品は最も鮮やかな一碗として知られる。

【重文】

尾形光琳「住之江蒔絵硯箱」

江戸時代18世紀

大胆で華麗な画風で後世の画家に大きな影響を与えた尾形光琳作の硯箱。光琳蒔絵の頂点を示す作品の一つ。



【重文】

「木造十二神将立像」7軀のうち「卯神像」

鎌倉時代13世紀

鎌倉彫刻の特色がよく表れた立像。運慶作と推定されている。12の木造神将像のうち、5軀を東京国立博物館、7軀を静嘉堂で所蔵。12軀全て現存するのは貴重。